

Title	鉄鋼業の海外直接投資の評価 - 北米投資問題の構造化と経済性評価を中心に -
Sub Title	
Author	小沢英樹(Ozawa, Hideki) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第746号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0746

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	小沢 英樹 (大同特殊鋼株式会社)	主査	伏見多美雄
		副査	小野桂之介 柴田 典男
所属	伏見多美雄 研究室		

鉄鋼業の海外直接投資の評価

－ 北米投資問題の構造化と経済性評価を中心に －

わが国の鉄鋼メーカーは、円高や貿易摩擦の進展によって急速なグローバル化が進む自動車等の加工組立型の企業の現地供給体制の要望から、十分なフィージビリティ・スタディを行わないまま北米進出をすることになった。

しかし、鉄鋼業は成熟産業に位置づけられており、収益性が低い上に投資金額の規模が大型のため、投資の採算は取れないと考えられている。そのため、北米からEC諸国へと投資先が増加していった場合、十分な経済合理性を考えずに安易に投資を進めることは、日本本社ないし全社的にみても大きな影響を与えると考えられる。

本研究では、そのような鉄鋼業の北米投資の評価を、日本本社に対する間接的なシナジー効果を加味した上で行う場合の考え方の基礎を整理するとともに、問題の本質をつかむために、主として経済性の視点から評価を合理的に行うためのシミュレーション・モデルを作成する。モデル作成に当たっては、国際税務や移転価格税制についてその本質を理解するために数式化による分析および考察も行っている。

本論は4つの章で構成されており、第1章では、日本及び米国の鉄鋼業界の経済環境について現状を把握した上で簡易モデルを作成し、投資の経済性の評価を行う。第2章では現地と日本国内との間にシナジー効果がある場合を想定し、これを加味した投資の経済性の評価を行う。第3章においては、鉄鋼業の海外投資の特徴である資本参加・合併型の投資に焦点をあて、相手国の出資者の行動も考慮にいれた経済性の評価を実施する。第4章においては、振替価格の操作によって資本参加先の企業の収益性ないし魅力度を向上させ、相手国の出資者の「鉄鋼離れ」の歯止め策とするケースを想定し、その有効性について分析を行う。